

## 成果の説明書

(氏名) 宇田 和子	(学部) 地域政策学部
1 重要事項	
■研究活動	
【報告書】	
①宇田和子, 2018, 「日台韓が共有できる課題: 食のリスク増、再エネと有機農業への期待、予防原則支持」寺田良一編『「日本、台湾、韓国における環境リスク意識の国際比較調査」報告書: 環境リスク認知と環境正義の問題フレーム』(科研費補助金・基盤研究(B)研究成果報告書), 36-47.	
【講演】	
②(招待あり) 11月2日、北九州市立大学で開催された北方シネマ「食卓の肖像」上映会のアフタートークに出演。	
③(招待あり) 12月15日、日台油症センターが北九州市八幡西生涯学習センターで開いた学習会で講演。演題は「いま食品公害が起きたら我々はどうなるのか」。	
研究全体の状況は以下の通りである。	
(1) <u>化学物質過敏症問題の研究</u> (科研費若手研究・代表) 群馬県、宮城県などで聞き取り調査を実施した。病の社会的な位置づけに関する論文作成に取り組んだ。	
(2) <u>日本と台湾における油症被害に関する研究</u> (科研費基盤 C・分担・立正大学) 東京都で行われた研究会に参加し、これまでの成果の書籍化について議論した。講演②および③の実施。	
(3) <u>薬害 HIV 問題に関する研究</u> (科研費基盤 B・分担・和歌山県立医科大学) 大阪府と群馬県で行われた研究会に参加し、千葉県にて関係者への聞き取り調査を行った。公害・薬害・食品公害の比較研究に着手した。	
(4) <u>環境リスクと社会的公正に関する研究</u> (科研費基盤 B・分担・明治大学) 東京都で行われた研究会に参加し、日台韓の三地域におけるリスク意識の比較分析を行った。報告書論文①の執筆。	
■教育活動	
・ <u>プレゼミの実施</u> 。研究室に配属予定の2年次生と隔週で文献購読を行った。	
・ <u>演習 I における調査研究および論文集の発行</u> 。化学物質過敏症問題についてゼミ生12名と大阪府・奈良県などで聞き取り調査を実施した。その成果を『2018年度 化学物質過敏症問題調査報告書』(全192頁)にまとめ、調査協力者に配布した。	
2 その他の事項	
・学内業務では、基礎教育委員、まちなか教育活動センター運営委員、地域政策学会理事を務めた。	
・学会活動では、環境社会学会の国際交流委員を務めた。	
・社会活動では、文科省科学技術・学術政策研究所科学技術予測センター専門調査員を務めた。また、ラジオ高崎の番組「ラジオゼミナール」にゼミ生と出演した(8月24日・31日放送)。	
3 次年度以降の計画・抱負	
学会誌への論文投稿、学会発表に努める。	